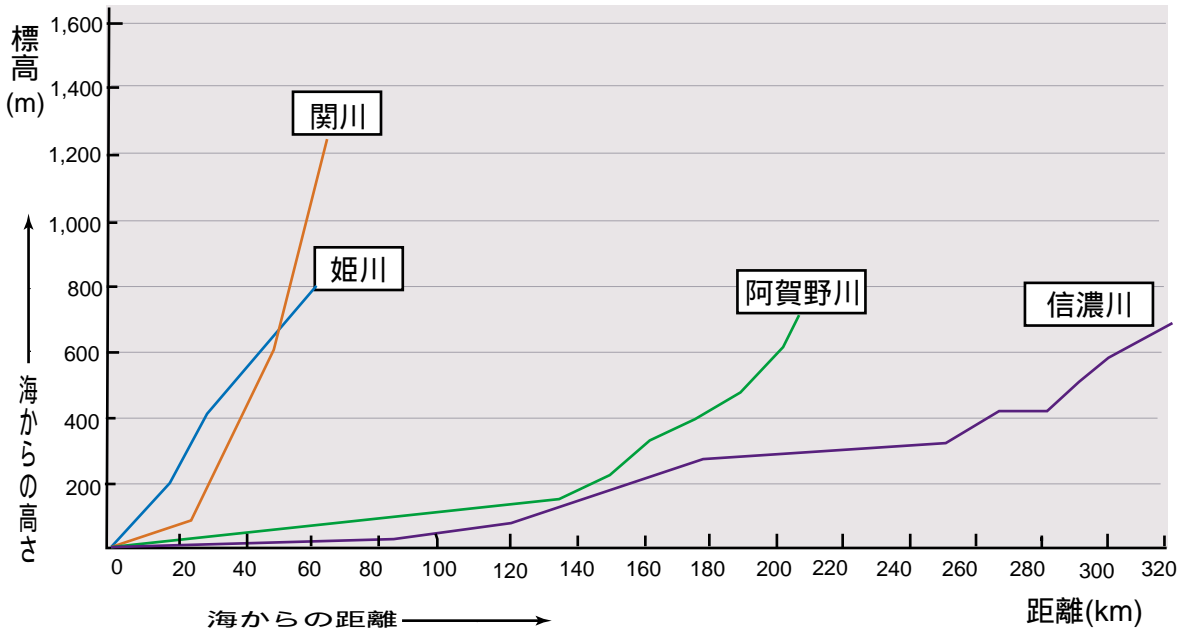


# 関川ってどんな川？

## ( 1 ) 関川の地形

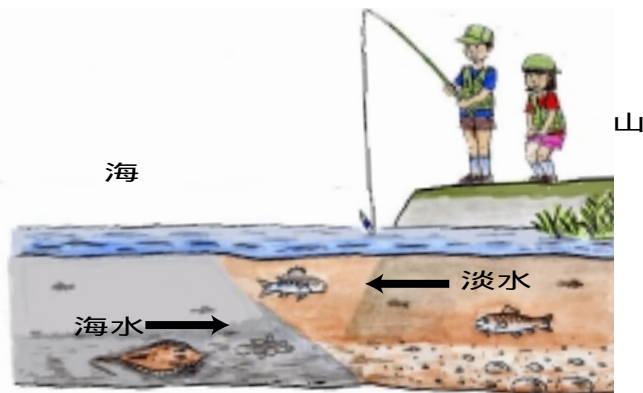
関川の上流では、川の両側がかなりせまっているために、急流河川となっていますが、<sup>しぶえがわ</sup>渋江川合流あたりからゆるやかな流れとなります。特に、<sup>いまいけばし</sup>今池橋の上流（河口から約12.2km）から<sup>かすがやまばし</sup>春日山橋までの区間は川幅が広く、川底には砂が多くみられ、ところどころに<sup>なかす</sup>中州がみられるようになります。河口から5kmぐらいまでは、海から塩水が上がってくる区間（<sup>かんちょういき</sup>感潮域）で、川の水は「<sup>えんすい</sup>塩水クサビ」という状態になっています。

かしょうこうばい  
河床勾配の比較



えんすい  
「塩水クサビ」ってなんだろう？

河口付近は、下げ潮時に、引き潮とともに川の水が海に流れ出し、上げ潮時には、海水が川の上流に向かって流れ込みます。日本海側は、潮差が小さいため、海水は海に戻らずにここにとどまります。そこでは、表面を淡水が海に向かって流れ、下層を海水が逆に川底に沿って上流へ向かうため、クサビ状になります。これを「塩水クサビ」といいます。



りゅうりょう  
(2) 関川の流量 (水の量)

関川の流量は、一年をとおしてみると、春先の<sup>ゆきど</sup>雪解けにより多くなりますが、夏には農業用水などに利用するために、関川から水をとるので、<sup>りゅうりょう</sup>河川の流量はたいへん少なくなります。

S62 ~ H8年 関川月別平均流量 (稲田橋付近)

